

安全データシート

この安全データシートは以下の要件に準拠しております：
JIS Z 7253:2019

化学品の名称 O-POWDER

改訂日 05-12-2023
改訂番号 1

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 O-POWDER

安全データシートの供給者の詳細

責任者
セルカム株式会社
大阪府大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル 1F・19F
TEL:06-6942-4436

緊急連絡電話番号 06-6942-4436
電子メールアドレス info@selcam.co.jp

化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 熱溶融型接着剤

推奨されない用途 情報なし

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

世界調和システム(GHS)による危険物有害性の物質でも混合物でもない

急性毒性(経口)	区分に該当しない
急性毒性(経皮)	区分に該当しない
急性毒性(吸入) - ガス	区分に該当しない
急性毒性(吸入) - 蒸気	区分に該当しない
急性毒性(吸入) - 粉じん/ミスト	区分に該当しない
皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分に該当しない
呼吸器感作性	区分に該当しない
皮膚感作性	区分に該当しない
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発がん性	区分に該当しない
生殖毒性	区分に該当しない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分に該当しない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分に該当しない
誤えん有害性	区分に該当しない
水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

危険有害性情報
世界調和システム(GHS)による危険物有害性の物質でも混合物でもない
他の危険有害性

高温の製品に接触すると火傷を生じる可能性がある。
製品の粉じんは眼、皮膚及び呼吸器系を刺激するおそれがある。
粉じんが眼に接触すると機械的刺激を引き起こす可能性がある。
粉じんに接触すると皮膚の機械的刺激又は乾燥を引き起こすことがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

製品には、指定の濃度で健康に対して危険有害性であると考えられる物質は含まれていない。

化学物質排出把握管理促進法(PRT法)：該当しない

労働安全衛生法通知対象物質：該当しない

表示対象物質：該当しない

毒物及び劇物取締法：該当しない

4. 応急措置

吸入した場合	固体 ：粉じん／微粒子の吸入。空気の新鮮な場所に移すこと。溶融。蒸気又は分解生成物を吸入した場合には、空気の新鮮な場所に移すこと。呼吸が困難な場合には、酸素吸入を行うこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	固体 ：皮膚を石けん(鹸)と水で洗うこと。溶融。溶融製品に接触した場合には、直ちに冷水で皮膚領域を冷やすこと。重篤な薬傷の場合には、直ちに医師の手当てを受けること。皮膚に付着している場合には、衣服を取り去らないこと。凝固した融解物質を皮膚から除去するには医学的な補助が必要である。
眼に入った場合	固体 ：眼に接触した場合には、コンタクトレンズを取り外し、直ちに多量の水でまぶた(瞼)の裏側も含めて少なくとも15分間洗うこと。溶融。直ちに少なくとも15分間まぶた(瞼)の裏側まで多量の水で洗うこと。溶融物質に接触した場合には直ちに医師の手当てが必要である。
飲み込んだ場合	直ちに医師の診察／手当てを受けること。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	溶融物質に接触すると皮膚及び眼に重篤な薬傷を引き起こすおそれがある。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。粉じんを吸入しないこと。蒸気やミストを吸入しないこと。すべての着火源を排除すること。個人用保護衣を着用すること(項目8を参照)。
医師に対する特別な注意事項	溶融物質によって生じた火傷は臨床上に治療しなければならない。除染後、薬傷は熱による火傷と同様に処置すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂、耐アルコール泡消火剤。
使ってはならない消火剤	棒状水を使用しないこと。
特有の危険有害性	この製品は不溶性で水に浮かぶ。融解生成物は重篤な薬傷を引き起こす可能性がある。
爆発性	微細な粉じんが十分な濃度で空気中に分散し、かつ着火源が存在する場合には、粉じん爆発の危険性がある。
特有の消火方法 大規模火災	水噴霧でドラムを冷却すること。 警告：放水では十分な消火の効果が得られない場合がある。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火を行う者は自給式呼吸器及び消火活動用の完全装備を着用しなければならない。個人用保護具を使用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	十分換気されているか確認すること。高温で溶融した製品との接触を避けてください。
緊急対応を行う者のための保護具	項目8で推奨されている個人用保護具を着用すること。
環境に対する注意事項	地上水又は下水施設に流さないこと。
封じ込め方法	溶融。乾燥砂／土で覆うこと。
浄化方法	製品が排水路に入らないようにすること。指定された個人用保護具を着用すること。
二次災害の防止策	漏えいした場合、発火源を除去すること。粉末物質は爆発性のある粉じん - 空気混合物を形成するおそれがある。火花を発生させない工具を使用すること。こぼれると非常に滑りやすくなる。
その他の情報	可能であれば溶融物質を放置して自然に凝固させること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項

皮膚及び眼との接触を避ける。取扱い後はよく洗うこと。静電気に対する予防措置を講ずること。蒸気へのばく露を防ぐため、十分な換気及び／又は技術的対策を行うこと。粉じんの発生を避けること。微細な粉じんが十分な濃度で空気中に分散し、かつ着火源が存在する場合には、粉じん爆発の危険性がある。裸火、高温面及び発火源から遠ざけること。この製品を熱間加工する場合には、充分換気されていることを確認すると共に個人用保護具を着用すること。

保管

安全な保管条件について

乾燥した涼しい場所に、熱源になり得るもの、裸火、日光又は他の化学物質から離して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

洗眼台及び安全シャワーが必ず作業場所の近くにあることを確認すること。

許容濃度

この製品は、供給されたままの状態なら、地域独自の規制団体が制定した職業被ばく限界が設定された危険有害物質を一切含んでいない。

化学名又は一般名	日本産業衛生学会	労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度	ACGIH TLV
粉塵	TWA: 8 mg/m ³ TWA: 2 mg/m ³		

Biological monitoring indicator

この製品は、供給されたままの状態なら、地域独自の規制団体が制定した生物学的制限値が設定された危険有害物質を一切含んでいない

環境ばく露防止

情報なし。

保護具

呼吸用保護具

労働者がばく露限界値を超える濃度にさらされる場合には、認証を受けた適切な呼吸用保護具を必ず使用しなければならない。

手の保護具

溶融物質の取扱時には耐熱手袋の使用が推奨される。固体：、長期にわたる又は反復した皮膚との接触が起こるおそれのある作業の場合は、不浸透性手袋を着用しなければならない。

眼及び／又は顔面の保護具と。

眼に入らないようにする。サイド シールド 付き保護眼鏡(又はゴーグル)を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

長袖の衣類。不浸透性衣類。

9. 物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質に関する情報

外観

粉末

物理状態

固体

色

白色

臭い

無臭

臭いのしきい値

情報なし

特性

値

備考・方法

融点／凝固点

120 - 130°C / 248 - 266°F

情報なし

沸点又は初留点及び沸点範囲

情報なし

可燃性

情報なし

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界 爆発又は可燃の上限界

爆発又は可燃の下限界		
引火点		情報なし
蒸発速度		情報なし
自然発火点	>350 °C	
分解温度		情報なし
pH		該当しない 水に不溶性
粘度		
動粘性率		情報なし
動的粘度		情報なし
水への溶解度		情報なし
溶解度		情報なし
n - オクタノール/水分配係数(log値)		情報なし
蒸気圧		情報なし
相対ガス密度		情報なし
相対密度		情報なし
粒径		該当しない
粒径分布		該当しない

その他の情報

爆発性	微細な粉じんが十分な濃度で空気中に分散し、かつ着火源が存在する場合には、粉じん爆発の危険性がある。
酸化性	情報なし
密度	>1g/cm ³ g/cm ³

10: 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	通常の条件下で安定。
危険有害反応可能性	微細な粉じんが十分な濃度で空気中に分散し、かつ着火源が存在する場合には、粉じん爆発の危険性がある。
避けるべき条件	極度の温度及び直射日光。熱分解を防ぐために、過熱しないこと。溶けた接着剤に水やその他の揮発性物質を加えないでください。ほこりの多い条件下では、火花及び静電気を含まずすべての着火源を排除すること。
混触危険物質	強酸化剤、強酸、及び強塩基。
危険有害な分解生成物	一酸化炭素。二酸化炭素(CO ₂)。炭化水
素。爆発データ	
静電放電に対する感度	微細な粉じんが十分な濃度で空気中に分散し、かつ着火源が存在する場合には、粉じん爆発の危険性がある。
機械的衝撃に対する感度	なし。

11. 有害性情報

急性毒性

毒性の数値尺度 - 製品情報

以下の値はGHS文書の第3.1章に基づいて算出されている

ATEmix(経口)	>5000 mg/kg
ATEmix(経皮)	>5000 mg/kg
ATEmix(吸入 - ガス)	>20000
ppm ATEmix(吸入 - 粉じん/ミスト)	>5
mg/l ATEmix(吸入 - 蒸気)	>20 mg/l

症状 情報なし。

製品情報

経口	この化学物質又は混合物の特定試験データはない。
吸入	高濃度の粉じんを吸入すると、呼吸器系に刺激を引き起こすおそれがある。
皮膚接触	粉じんに接触すると皮膚の機械的刺激又は乾燥を引き起こすことがある。
眼接触	粉じんが眼に接触すると機械的刺激を引き起こす可能性がある。
皮膚腐食性/刺激性	分類できない。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	分類できない。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	分類できない。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

生殖細胞変異原性	分類できない。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。
発がん性	分類できない。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。
生殖毒性	分類できない。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	粉じんは気道を刺激する。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。
誤えん有害性	分類できない。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

12. 環境影響情報

生態毒性

未知の危険有害性物質の濃度 混合物の0%は水生環境に対する危険有害性が未知の成分で構成されている。

残留性・分解性 情報なし。

生態蓄積性 この製品のデータはない。

他の有害影響 情報なし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 現地の規則に従って廃棄すること。環境法律に従って廃棄物を廃棄すること。

汚染容器及び包装 空容器を再利用しないこと。

14. 輸送上の注意

IMDG 規制対象外

ADR 規制対象外

IATA 規制対象外

15. 適用法令

国内規制

労働安全衛生法：該当しない

通知対象物質：該当しない

表示対象物質：該当しない

毒物及び劇物取締法：該当しない

消防法：該当しない

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)：該当しない

海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律：該当しない

国際規制

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約：該当しない

ロッテルダム条約：該当しない

16. その他の情報

改訂日 05-12-2023

改訂記録 ***前回の発行以降に更新されたデータを示します。

安全データシートで使用されている略語及び頭文字のキー又は凡例
 凡例 セクション8：ばく露防止及び保護措置

TWA	TWA(時間加重平均)	天井値	最大限界値
-----	-------------	-----	-------

Sk*	経皮吸収	+	感作性物質
-----	------	---	-------

本SDSの編集に使用した主要参考文献及びデータ源

環境有害物質・特定疾病対策庁(ATSDR)

米国環境保護庁ChemViewデータベース欧州化学品局

欧州食品安全機関(EFSA)

EPA(米国環境保護庁)

急性ばく露ガイドラインレベル(AEGL)

米国環境保護庁、連邦殺虫剤、殺菌剤、殺鼠剤法米国環境保護庁高生産量化学物質

フードリサーチジャーナル(Food Research Journal)

危険有害性物質データベース

国際統一化学情報データベース(IUCLID)日本政府によるGHS分類

オーストラリア国家工業化学品届出審査機構(NICNAS)

NIOSH(米国労働安全衛生研究所)

米国医学図書館ChemID Plus(NLM CIP)

米国医学図書館のPubMedデータベース(NLM PubMed)

米国国家毒性プログラム(NTP)

ニュージーランド化学物質分類・情報データベース(CCID)

経済協力開発機構、環境・健康・安全に関する文書

経済協力開発機構、高生産量化学物質点検プログラム

経済協力開発機構、スクリーニング情報データセット

世界保健機構

免責事項

このSDSは、JIS Z 7252:2019およびJIS Z 7253:2019の要件に準拠している。このSDSに記載されている内容は、発行日時点の知見、情報に基づき正確を期したものです。ここに記載されている情報は当該製品の安全な取扱い、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、漏えい(洩)時の処理など指針とすることのみを目的としたものであり、いかなる保証をするものではなく、また品質仕様ではありません。本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの材料と組み合わせて使用した場合、又は何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

安全データシートのおわり